

令和 3 年 6 月 23 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K01900

研究課題名(和文) 異年齢教育による障害の「不可視化」機能：インクルーシブ教育の新次元

研究課題名(英文) Inclusive education and the developmet of children with diability at multiage school

研究代表者

赤木 和重 (Kazushige, Akagi)

神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：70402675

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、異年齢教育による障害の「不可視化」機能について、アメリカ・シラキュースにある異年齢学校、および、へき地における複式学級に注目して、検討を行うことであった。本研究の成果は、大きくは2点にまとめられる。1点目は、アメリカの異年齢学校に注目したDVD付の本を出版したことである。子どもの様子および教師へのインタビューを収めたDVDおよびその解説を含めた本を出版した。2点目は、へき地に位置する複式学級とインクルーシブ教育の親和性に注目して検討した論文を出版したことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、「同一年齢・同一内容」学級を前提として論じられることの多かったインクルーシブ教育に対し、異年齢学級に注目することの意義を、国際的な研究および国内のへき地・複式学級に注目して提起したことにある。このような提起は、教育実践を変革していくうえでも、実践的意義を有すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The results of this research can be summarized in two main points. The first point is the publication of a book with DVD focusing on American schools of multi ages. This DVD is contained the child's appearance and interviews with the teacher. The second point is the publication of a treatise focusing on the relationship between compound classes located in remote areas and inclusive education.

研究分野：発達心理学

キーワード：発達心理学 インクルーシブ教育 異年齢学校

1. 研究開始当初の背景

インクルーシブ教育への注目

国内外で、インクルーシブ教育に注目が集まっている。この背景には、発達障害(もしくはその可能性のある)のある子どもや、外国籍のある子どもの増加などの状況がある。加えて、グローバル社会の中で異質な他者と協同して学習・生活していく理念を実現するうえでも意義がある。

通常学級におけるインクルーシブの視点からの授業づくり

インクルーシブ教育を発展させるためには、障害のない子ども・障害のある子どもがともに在籍する通常学級における授業づくりが鍵となる。中でも、「ユニバーサルデザイン(以下、UD)」に基づく授業づくりが注目される。UDでは、全ての子どもが「わかる・できる」授業を目指し、視覚化・構造化を授業のデザインのなかで取り入れている(Garguiulo, 2009)。また、ほかに、障害のある子どもの協同学習(涌井, 2013)や、学級集団での相互作用(吉田, 2015)などが注目されている。

同年齢学級主義の弊害

以上のように、様々な視点からインクルーシブの授業づくりが検討されている。しかし、いずれの研究・実践も、同年齢であれば学力の程度に関係なく同集団で学ぶ「同年齢学級主義」を前提としている点では共通している。「同年齢学級主義」が、インクルーシブ教育を進めるうえでの困難となっていることを認識しなければならない。

その困難とは、障害児の「障害」を否定的に可視化させる機能を持っていることに集約される。障害児も例外なく同年齢学級で学ぶ。その結果、他児との学力差・発達差は明確に見え、障害児の「できなさ」がより明確になりやすく、集団への参加を阻害しやすい。窪島(2014)が指摘するように、インクルーシブ教育は、指導方法のみで解決するものではない。学級編制を議論の俎上にのせる必要がある。

同年齢学級という視野から離れば、障害のある子どもを含めた異年齢を基礎集団としたインクルーシブ教育を構想できる。異年齢教育の場合、様々な学力・能力を持った子どもたちが共に学ぶために、一律の評価軸が適用できない。年齢ゆえの「できる」「できない」の幅が大きくなる。結果として、障害ゆえのできなさが見えにくくなり、障害の「不可視化」機能を有する可能性がある。

異年齢教育の実例：アメリカの私立小学校から

このようなポジティブな可能性はある一方、異年齢教育を実際に進めるのは難しいことも予想される。同年齢以上に学力の差がある児童を教えるのは容易ではない。また、わが国では学校設置基準により原則として同年齢学級を編成しなければならないこともあって、外国のフィールドにねらいを定めた。障害児を含めた異年齢教育の学習実態を明らかにすることを目的として、異年齢教育を積極的に進めているアメリカ、ニューヨーク州、シラキユース地区にある New School を7ヶ月間にわたってフィールドワークを行った(赤木, 2017)。

2. 研究の目的

これまでのインクルーシブ教育では、「同年齢学級主義」の枠内で方策が考えられてきた。それに対し、本研究では、異年齢教育に注目する。異年齢教育が、障害の「見えにくさ(「不可視化」機能)」に寄与することを明らかにすることを目的とする。障害のある子を含めた異年齢教育を実施している、(1)アメリカ、ニューヨーク州にある私立学校、(2)北海道の釧路・根室管内にあるへき地・複式学級において、教師・保護者に聞き取りおよび参与観察を行う

3. 研究の方法

アメリカ、ニューヨーク州にある私立学校について参与観察を行った。対象となった学校は、異年齢教育を実施しているオルタナティブの学校であった。映像作家とともに、フィールドワークを行い、エピソードの収集および撮影を行った。

へき地小学校A校特別支援学級担任、特別支援学級在籍児童の当該学年の3,4年複式学級担任、B校特別支援学級担任、特別支援学級在籍児童の当該学年の3,4年複式学級担任を対象とした。これらの担任に、「複式学級における相互の学び合いについて、および、複式学級における授業、学年別授業、個別学習の工夫、特徴については、半構造化インタビュー調査を行い、録音した。その後、エピソードごとに内容にとって、整理・分類を行った。

4. 研究成果

本研究の成果は、大きくは3点にまとめられる。

1点目は、アメリカの異年齢学校に注目したDVD付の本(赤木和重編著『アメリカの教室に入ってみた: DVD付特別版』ひとなる書房)を出版したことである(右図参照)。子どもの様子および教師へのインタビューを収めたDVDおよびその解説を含めた内容であり、DVDの作成は、富田直樹氏の作成によるものである。

この本を出版することで、実際の子もたちが、異年齢教育の中で学ぶ様子が明らかにできたとともに、教師のどのような思想的背景をもって、学校を設立・運営しているかを明らかにすることができた。具体的には、No Child Left Behind Act(落ちこぼれ防止法)に代表されるような学力テストによる教育の自由度の低下などによる教育の画一化から距離をとるために、異年齢教育が行われていることを明らかにすることができた。

また、現地の状況について雑誌記事などで解説を行うことができた。具体的には、流動的異年齢教育について詳細に述べた。流動的異年齢教育とは、1日のなかで学習形態が縦横無尽に変化しながら学ぶ学習形態であり、新しいインクルーシブ教育の方向性を示すものと考えられた。

流動的異年齢教育のメリットは、2つある。1つ目のメリットは、子どもそれぞれの違いに配慮した学習を進めることができる点である。違いにあわせることで、「3年生だから3年生の算数を学ぶ」必要がなくなる。その子の理解や関心にあわせて学習内容を配置することができる。障害のある子どもにとっては、自分の「できる・わかる」ところから出発できるため、自分の障害を感じにくく・感じさせにくくなる可能性がある。

2つ目のメリットは、子どもたちどうしがつながりやすくなることである。子どもそれぞれの違いを配慮するものの、ずっと個別バラバラで学んでいるわけではない。算数の程度が似たような子どもどうしで学ぶことで、お互いに切磋琢磨しやすくなる。また、人見知りの子どもであれば、最初は仲のよい子どもと頻りに学び、徐々に学校に慣れてくると、年上のお兄さんと一緒に学び、その中で、人間関係を無理なく豊かにしていくことが可能となる。

このように、アメリカで大事にされている「違い」と、日本で大事にされている「つながり」を組み合わせた流動的異年齢教育を行うことで、それぞれの子どもの学びを大事にしつつ、様々な級友とのつながりを深めるようなインクルーシブ教育の方向性を示すことができた。

2点目は、へき地に位置する複式学級とインクルーシブ教育の親和性に注目して検討した論文を複数出版することができた。へき地に位置する複式学級は、最初から異年齢教育を意図していたわけではない。いわば「消極的」異年齢教育ともいえる。しかし、意図していないにもかかわらず、異年齢教育が実施されることで、多様な子どもが包摂される可能性を明らかにした点は重要であると思われる。

具体的には、へき地・小規模校の特別支援学級に、複式学級における子どもたちどうしの学び合いや、授業の工夫などについてたずねた(小淵・戸田, 2017)。その結果、複式学級は、その年齢構成ゆえに、授業におうじて集団・学習グループを編成し、個別指導やTTによる指導を行うなど、多様な指導形態と授業形態が実施されていることが明らかになった。この事実は、特別な支援を要する子どもたちの授業参加が、しやすくなる可能性を示唆している。

3点目は、本研究課題に関連して、著書(分担執筆)を出版したことである。例えば、石井英真(編)(2021)『流行に踊る日本の教育』東洋館出版社の分担執筆に参加し、現在のわが国のインクルーシブ教育の問題点について、本研究の成果であり異年齢教育の視点から述べた。このように、異年齢教育に注目することで、新たな問題提起を行う視点を得ることができた。具体的には、現在の日本のインクルーシブ教育では、同一年齢・同一内容での学習形態を所与のものとして展開しようとする傾向がある。しかし、このような前提では、多様な子どもたちを包摂するには限界があることを、いくつかの事例に基づいて指摘した。

他にも、下司ほか(編)(2019)『教育学年報11: 教育研究の新章』(世織書房)では、障害のある子どもたちの発達と教育に関する最近の動向について、異年齢教育での知見も含めて述べた。具体的には、発達のとらえかたが、実は多義的であり、大きくは3つに分かれること、そのため、それぞれの発達観に応じて教育実践のありかたが規定されていることを述べた。

このような著書の出版は、教師などの実践家にも示唆を与えることができたと考えている。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 赤木和重・村上公也	4. 巻 161
2. 論文標題 ゆれる正しさ, ほどける自閉症	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 60-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 古村真帆・赤木和重	4. 巻 25
2. 論文標題 通常学級における個別支援を他児童はどのように捉えているのか：公正段階および親密度に着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SNEジャーナル	6. 最初と最後の頁 83-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 赤木和重・大塚真由子	4. 巻 25
2. 論文標題 特別支援学校教員を対象とした個別の指導計画に関する意識調査：作成上の悩みや困難に焦点をあてて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SNEジャーナル	6. 最初と最後の頁 162-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 赤木和重	4. 巻 25
2. 論文標題 書評：『インクルーシブ授業の国際比較研究』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SNEジャーナル	6. 最初と最後の頁 201-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 33
2. 論文標題 書評『教える・学ぶ：教育には何が出来るか シリーズ子どもの貧困3』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 授業づくりネットワーク	6. 最初と最後の頁 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 519
2. 論文標題 子どものけんかってすごい：発達の理解と対応	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本の学童はいく	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 2
2. 論文標題 新しい学びの文化に出会う	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 シャンティつくば実践報告集	6. 最初と最後の頁 127-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 558
2. 論文標題 身体や心を「わがもの」にするには (書評『限界を超える子どもたち』)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸田竜也	4. 巻 6
2. 論文標題 インクルーシブ教育の現状と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊福祉	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本真帆・赤木和重	4. 巻 10
2. 論文標題 個別支援を必要とする児童に対する同学級児童の意識：他者からの受容感と授業場面に着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 神戸大学大学院人間発達環境学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 221- 230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 864
2. 論文標題 わが国のインクルーシブ教育の進展と排除	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 67-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 758
2. 論文標題 インクルーシブ教育を組みかえる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 指導と評価	6. 最初と最後の頁 21-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重	4. 巻 29
2. 論文標題 インクルーシブ授業・クラスのためのはじめの一步：「違い」をとらえる・ひきだす・つなげる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 授業づくりネットワーク	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木和重・安藤友里・山本真帆・小淵隆司・戸田竜也	4. 巻 72
2. 論文標題 複式学級における教育可能性の再発見：授業づくり・インクルーシブ教育・自尊感情の視点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 へき地教育研究	6. 最初と最後の頁 85-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小淵隆司・戸田竜也	4. 巻 72
2. 論文標題 へき地・小規模校における特別な支援を要する児童を包摂する複式学級の柔軟な授業のあり方の検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 へき地教育研究	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 古村真帆・赤木和重
2. 発表標題 通常学級における個別支援を他児童はどのように捉えているのか 公正段階および親密度に着目して
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第25回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤木和重・大塚真由子
2. 発表標題 特別支援学校教員を対象とした個別の指導計画に関する意識調査：作成上の悩みや困難に焦点をあてて
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会第25回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉 文慧, 郭 旭坤, 金丸彰寿, 挽本 優, 前岡良汰, 大塚真由子, 赤木和重
2. 発表標題 インクルーシブ時代の「転籍」に関する定量研究：小学校通常学級在籍児童の「転籍率」の定義と算出方法の提案
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金丸彰寿, 呉 文慧, 郭 旭坤, 挽本 優, 前岡良汰, 大塚真由子, 赤木和重
2. 発表標題 インクルーシブ時代の「転籍」に関する定量研究(2)：1968-2018年における小学校通常学級在籍児童の「転籍率」の歴史的変遷
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤木和重, 郭 旭坤, 挽本 優, 前岡良汰, 呉 文慧, 金丸彰寿, 大塚真由子
2. 発表標題 小学校時期における「転籍」に関する定量研究(3)：1968-2013年における小学校通常学級の「在籍率」の推移
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤木和重
2. 発表標題 「学びほぐしunlearn」で自分が変わる（自主シンポジウム：当事者から「青年期の学び」の意義を考えるIII ~ 高次脳機能障害の青年の事例から ~ 指定討論）
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤木和重
2. 発表標題 不確かさを支える発達論（自主シンポジウム「インクルーシブ保育における対話を問う：不確か性への耐性とユーモア・ファンタジー」指定討論）
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡村由紀子・金子明子・赤木和重
2. 発表標題 保育者と子ども集団の発達モデルの提唱：0歳児から3歳児を中心に
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤木和重
2. 発表標題 遊びと遊び心から子どもを中心とした障害児保育を考える（自主シンポジウム）
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 赤木和重・心理科学研究会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 294
3. 書名 中学・高校教師になるための教育心理学 第4版	

1. 著者名 赤木和重・心理科学研究会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 316
3. 書名 新・育ちあう乳幼児心理学	

1. 著者名 赤木和重・三木裕和・越野和之・障害児教育の教育目標・教育評価研究会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 136
3. 書名 自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価2	

1. 著者名 赤木和重・下司 晶・丸山英樹・青木栄一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 468
3. 書名 教育学年報11：教育研究の新章	

1. 著者名 赤木和重・小西祐馬・川田 学	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 352
3. 書名 遊び・育ち・経験：子どもの世界を守る（シリーズ子どもの貧困2）	

1. 著者名 赤木和重	4. 発行年 2019年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 196
3. 書名 ユーモアの即興から生まれる表現の創発：発達障害・新喜劇・ノリツッコミ	

1. 著者名 赤木和重・大久保智生・牧 郁子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 151
3. 書名 教師として考えつづけるための教育心理学：多角的な視点から学校の現実を考える	

1. 著者名 赤木和重・山田康彦・森脇健夫・根津知佳子・中西康雅・大日方真史・守山沙弥加・前原裕樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 214
3. 書名 PBL事例シナリオ教育で教師を育てる：教育的事象の深い理解をめざした対話的教育方法	

1. 著者名 赤木和重	4. 発行年 2018年
2. 出版社 全障研出版部	5. 総ページ数 143
3. 書名 目からウロコ！驚愕と共感の自閉症スペクトラム入門	

1. 著者名 赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ひとなる書房	5. 総ページ数 167
3. 書名 どの子にもあ～楽しかった！の毎日を：発達の見点と保育の手立てをむすぶ	

1. 著者名 子安増生・明和政子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 266
3. 書名 教職教養講座 第9巻 発達と学習	

1. 著者名 全国障害者問題研究会兵庫支部・木下孝司・川地亜弥子・赤木和重・河南勝	4. 発行年 2017年
2. 出版社 クリエイツかもがわ	5. 総ページ数 217
3. 書名 実践、楽しんでますか?：発達保障からみた障害児者のライフステージ	

1. 著者名 赤木和重	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 208
3. 書名 子育てのノロイをほぐしましょう	

1. 著者名 赤木和重・石井英真	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 320
3. 書名 流行に踊る日本の教育	

1. 著者名 赤木和重、DVD監督 / 富田直樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひとなる書房	5. 総ページ数 256
3. 書名 DVD付特別版アメリカの教室に入ってみた	

1. 著者名 赤木和重・宇野宏幸、一般社団法人日本LD学会第29回大会実行委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 156
3. 書名 学びをめぐる多様性と授業・学校づくり	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小淵 隆司 (Obuchi Takashi) (50457818)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	
研究分担者	戸田 竜也 (Toda Tatsuya) (60352639)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関